

令和2年度行政評価 施策評価シート (令和元年度実績)

施策名 新たな文化創造・文化活動の推進

施策コード 5020303

1. 施策の担当	
主管課	市長公室 政策推進課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第2章 ひとを豊かに育むまちづくり (子育て・教育)	節 第3節 生涯学習・スポーツ
	施策	新たな文化創造・文化活動の推進	

**基本方針**

- ・子育て世帯や団塊の世代に対して、文化への親しみや文化活動による世代間の交流が持てるよう支援し、その文化の魅力を内外に発信します。
- ・文化会館の管理運営は、最小の経費で最大の効果が発揮できるよう努めるとともに、使用料のあり方等について検討し、利用者の増加に努めます。
- ・利用者ニーズに合った施設の改修整備等を効率的、計画的に行い、施設の利用環境を整備するとともに、利用者の利便性の向上を図ります。

**現況と課題**

- ・文化会館は築20年を過ぎ老朽化が進んでいくため、計画的に維持修繕、改修を行う必要があります。
- ・貸館利用率はこれまでの10年間に於いても僅かながら上昇しており、また利用に関する満足度及び自主事業に対する満足度も充足されてきています。今後も引き続きニーズに応じたサービス（催し等）を提供していく必要があります。
- ・仕事・家事・育児・介護で忙しいことによる文化芸術活動機会の減少が考えられるため、その中で文化会館として催しをどのように企画して取り組んでいくかが課題となっています。
- ・情報化の進展による新しい芸術の創造にも工夫を凝らしていく必要があります。

**施策目標**  
 対象（誰を、何を、どこを）  
 市民

**意図（どのような状態にしたいのか）**  
 歴史文化に加え、閑空をあわせもつ泉佐野市文化を発信し、都市イメージ・魅力の向上を図ります。空港、りんくうタウン、文化会館を文化拠点として、活用・連携を推進します。

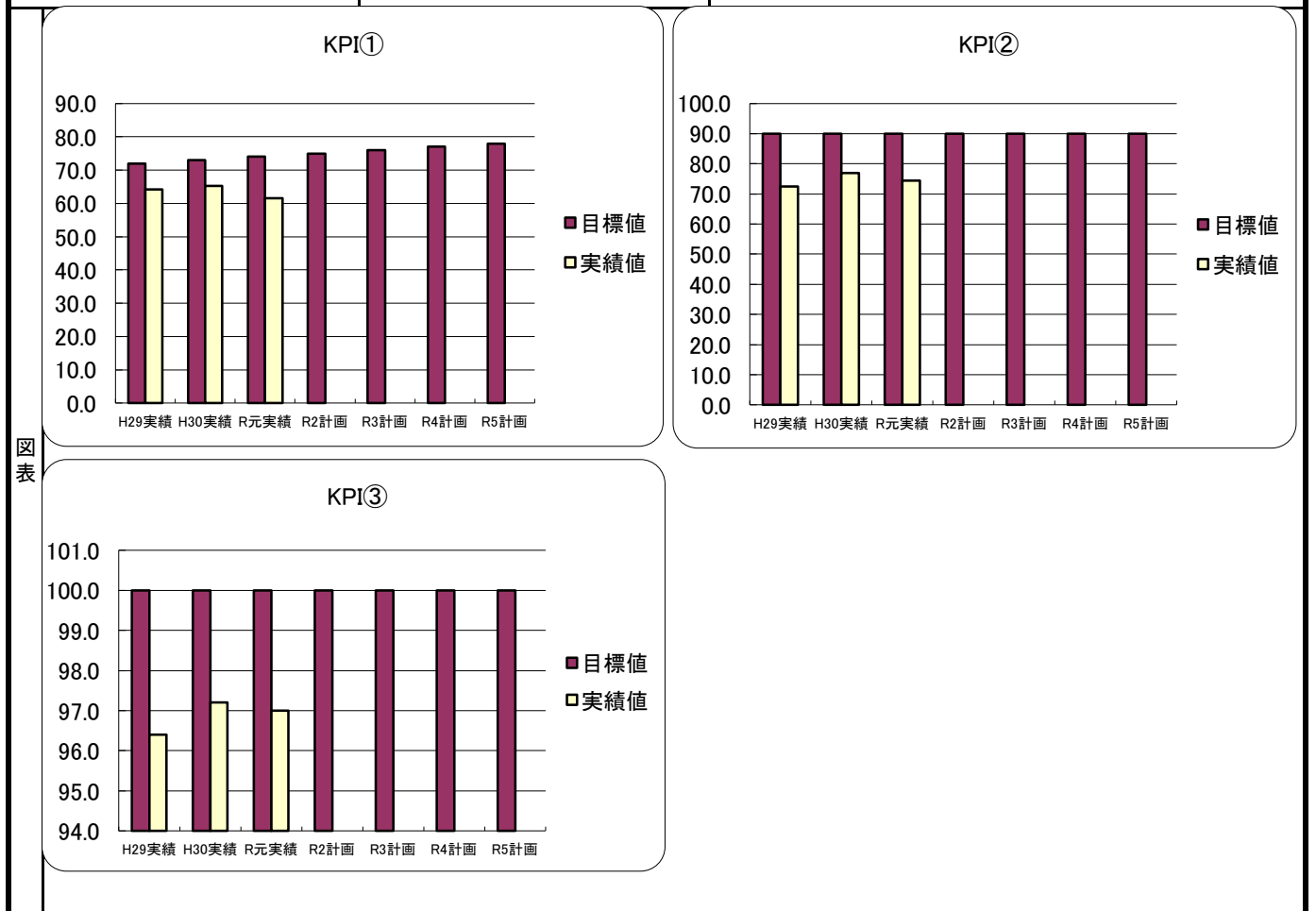
3. 市民ニーズ							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度（偏差値）	44.2						
重要度（偏差値）	36.2						

4. 施策にかかるコスト								
コストの内訳	単位	H30決算	R元決算					
	千円	人件費	9,706	9,270				
		事業費	969,763	992,066				
財源の内訳	千円	フルコスト	979,469	1,001,336				
		国庫支出金	0	0				
		府支出金	0	0				
		市債	0	0				
		その他	3,697	1,393				
		一般財源1（＝フルコスト－特定財源）	975,772	999,943				
一般財源2（＝直接事業費－特定財源）	966,066	990,673						

5. 施策の重要業績成果指標(KPI)							
① KPI 1 文化会館の貸館利用率							
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	72.0	73.0	74.0	75.0	76.0	77.0	78.0
実績値	64.2	65.2	61.5				
達成度	89.17	89.32	83.11				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市民の文化拠点施設である文化会館の貸館利用率を把握することにより、市民の文化活動が向上しているかどうかの目安となる。		年間1%の伸びを目標とする。		令和元年度の貸館利用率は61.5%であり、前年度から3.7ポイント減となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、練習室（小）を除く各施設の利用率が低下したためである。			

② KPI 2		文化会館の利用に関する満足度					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値	72.5	76.9	74.4				
達成度	80.56	85.44	82.67				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
文化会館の利用に関する満足度の向上により、施設全般のハード・ソフト面において利用者が満足されていることがわかる。また、今後の施設改善をしていくための検討材料となる。		平成21年実績で文化会館の利用に関する満足度78.8%となり、単年度達成率が123.12%となったため、平成22年度より目標値の設定をより高いレベルで見直し。さらに、平成26年度から毎年度90%を目標設定とし、貸館利用者の満足向上を目指す。		貸館利用者満足度について、満足と答えた方は74.4%となり、対前年比で2.5ポイント減少し、目標の90%には達しなかった。（やや満足24.4%、やや不満1.2%・不満0.0%）また、スタッフの言葉づかいの満足度は89.4%、応接態度の満足度は87.7%、説明方法の満足度は86.4%であった。			

③ KPI 3		文化会館の自主事業に対する満足度					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値	96.4	97.2	97.0				
達成度	96.4	97.2	97.0				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
自主事業の満足度を把握することにより、文化振興事業における市民ニーズ等の動向が把握できるとともに今後の事業手法の検討材料にもなります。		自主事業に対する満足度については、大変良い・良い・普通・良くないの区分で把握。平成25年度までは大変良いの区分を実績値としていたが、平成26年度からは大変良いに加え良いの区分も実績値とし、毎年度100%を目標値とする。		アンケート調査の結果、芸術性にこだわらず広く市民に親しまれる企画の提供を求める意見や、多様なジャンルの舞台芸術作品の提供を求める意見が多かった。			



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) <b>2</b>	文化振興事業の自主事業総収支比率は57.4%となった。平成29年4月に稼働率の低い施設(特別会議室・和室・茶室)の料金引き下げを実施済み。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) <b>1</b>	館内3箇所にアンケート回収箱を設置し、その結果を貸館利用の改善に活用。また自主事業のアンケート調査については市民ニーズの把握に努め、事業選択の材料として活用している。平成21年度より友の会意見交換会を開催し、会員の生の声を把握することに努め、友の会事業の充実に役立っている。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) <b>2</b>	平成22年度より5年間財団法人泉佐野市文化振興財団が指定管理者となる。公益法人改革の中で、平成23年4月1日より一般財団法人へ移行。市の財政健全化計画とも整合性をとる。平成28年度より5年間、一般財団法人泉佐野市文化振興財団が指定管理者となる。
	合計点	(10点中) <b>5点</b>	
	総合評価	<b>C</b>	施設利用率の実績は、昨年度比3.7ポイント減の61.5%となった。また、利用に関する満足度(「満足」と回答)が74.4%と昨年度から2.5ポイント減少した。自主事業に対する満足度(「大変良い」「良い」)は97.0%と昨年同様高い割合となった。引き続き、満足度の向上に努めていく必要がある。昨年同様、収支は単年度黒字となったため、精算による市への指定管理料の戻入があった。
二次評価(政策推進課・行財政管理課による評価)	<b>C</b>	引き続き目標値の達成に努めること。	
三次評価(理事者による評価)	<b>C</b>	引き続き目標値の達成に努めること。 コロナ禍に求められる戦略立案と事業実施に努めること。	

7. 施策を構成する事務事業							
	事務事業		R元年度決算額			R2年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01005450	文化会館等管理運営事業	9,270	992,066	990,673	0	B
合計			9,270	992,066	990,673	0	